様式２

令和５年度
岡崎市中小企業・勤労者支援センター指定管理業務に関する事業報告書

公の施設名称	岡崎市中小企業・勤労者支援センター
施設の設置目的、役割	地域産業の振興のために必要な人材及び中小企業の育成並びに勤労者の労働環境の改善及び福利厚生の増進を支援する施設
施設の所在地	岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地３
施設規模	敷地面積：6,274.00 ㎡ 建物面積：1,959.61 ㎡
指定管理者	名　称：岡崎市中小企業・勤労者支援センター管理共同事業体 所在地：岡崎市羽根町字小豆坂 117 番地３ 代表者：公益財団法人岡崎幸田勤労者共済会 理事長　清水　康則
指定期間	令和３年４月１日～令和８年３月 31 日

１　事業の実施状況

⑴　実施状況

業務内容	実　　績
支援センターの保守管理に関する業務 建築物、建築設備、備品等の保守管理	自家用電気工作物保安管理・消防設備保守点検及び防火対象物点検・空気調和設備保守点検・フォークリフト保守点検・天井クレーン点検・建築物等定期点検業務については、専門知識や技術が必要なため業者委託をし、施設の利用状況と照らし合わせながら、保守点検等を安全に実施することができた。 建築物、建築設備については、指定管理者において建物自主点検チェックシートにより毎月点検し、不良個所の早期発見に努めた。 備品等については、管理台帳により数量と状態の確認をした。
支援センターの環境維持管理業務 清掃業務、環境管理業務、植栽管理、保安警備業務、施設保全業務	警備業務については業者委託をし、防犯、火災監視サービスにより終日施設の安全確保を行っている。 清掃、植栽管理については業者委託をするとともに、管理者による清掃や敷地内の樹木の選定を行い環境整備に努めた。 廃棄物についても業者委託をし、施設内の衛生環境を整えた。
施設の運営に関する業務 受付業務、産業人材の育成に資する職業訓練の実施に関する業務	予約受付については、定期的に利用している団体が多いためスムーズに予約受付ができている。 職業訓練の実施に関する業務では、まずは施設見学を依頼し、持込品の確認や利用時間等の事前打ち合わせを行ったので、滞りなく実施することができた。 今年度は、「石屋の応援団 in 岡崎」のイベント実施にあたり岡崎技術工学院や関係団体との協力により実践セミナーと石の道具の展示即売を同時に行うことができた。石の街岡崎の職業訓練校の施設で開催できたことに大きな意義がある。岡崎を代表する伝統産業を盛り上げていく場としての利用に今後も繋げていきたい。
行政財産目的内使用（自動販売機設置）に係る業務	施設利用者の利便性向上のため本館棟に１台、多目的実習棟に１台自動販売機を設置している。季節商品の切替時期や販売商品については、気温や施設利用状況をみながら業者担当者と相談し施設利用者が快適に過ごすことができるようにした。 また、職員も自動販売機周辺の清潔に心掛けた。

⑵　事業実施に対する自己評価

基本協定書に基づき、岡崎市中小企業・勤労者支援センター業務仕様書及び施設設備の維持管理に関する法令に沿って事業を実施した。

保守管理に関する業務では、消防設備に関する指摘事項であった多目的実習棟、本館棟の誘導灯の取替工事を実施し、利用者の安全を最優先に計画に沿った修繕を実施した。

また今年度は岡崎技術工学院の実技授業の一環で、本館棟正面玄関の既存のスロープの左右にスロープを拡充し段差による躓き防止措置をより強化した。日々不便な箇所を岡崎技術工学院と相談、協力して改善できるのは大きな強みである。

施設環境維持管理業務では、管理者が随時草刈及び剪定を実施し環境維持に努めたが、急斜面の草刈と樹木剪定は業務委託で対応した。天候等のため実施時期が遅れてしまったが、短期間で効率的に実施することができた。急斜面や溜池周辺の草刈りは、敷地隣の施設が建築中のため作業が困難な場所であるが業者や担当課と相談し効率的な方法で実施することができた。

また新型コロナウィルス感染症の位置づけが５類に移行したことにより、日常における基本的な感染対策については主体的な選択を尊重し、個人や事業者の判断に委ねられることになったため当施設についても臨機応変に対応することとした。

施設の運営に関する業務では、予約システムが導入されて担当者が変更になっても団体内で十分引継説明がなされており、予約システムによる受付方法が確実に浸透してきているが、岡崎市の他施設にも同じ団体名、担当者名で登録している場合が今年度数件見受けられた。

また、多目的実習棟については、金曜日の夜間利用に予約が重なり毎回抽選となるが、来館せずに抽選できる方法が定着しており、苦情もなく公平に抽選できている。

産業人材育成に資する職業訓練の実施については、今年度企業の講習、研修についても新たに５団体の利用があった。これらは岡崎技術工学院の関係団体や共済会の会員事業所の利用である。地道な PR が施設利用に繋がったものと理解している。残念ながら昨年度技能検定で新たに利用した団体については、今年度は技能検定を実施しない年度ということで継続的に繋がらなかったが今後も利用に繋がるように働きかけていきたい。

提案事業については、ドローン操縦体験者は前年度比で 88 名減少したが、今年度はドローン操縦体験後のドローン夜間自主訓練の次のステップとして火曜日に自己の機体で自由に操縦できる「ドローンフリーフライト」を追加事業として実施した。ライセンスがなくても当施設の屋内練習場で自由に操縦訓練ができるため資格取得を目指す方や資格取得後の操縦技能向上の場としてリピーターが活用している。

また屋内練習場のみならず昨年度実施の教員向けドローンの講習会や農業従事者向けの講習会をステップアップし、東部学校給食センター跡地と愛知県立農業大学校での屋外ドローン操縦体験を実施した。

先端技術セミナーとしては、今年度新たな取り組みとして中小企業の事業主向けに人材開発支援助成金説明会を２回実施した。当施設を職業訓練研修で利用している団体の中にも助成金制度を知らない団体もあったことからの説明会開催であったが、２件の助成金申請に繋げることができた。また、ビギナー向け投資の基本やはじめての新 NISA 制度を学ぶ勤労者のための資産形成セミナーを実施した。このような勤労者の生活の安定を図る福利厚生セミナーを今後も継続して開催していきたい。

その他にも事業所によっては、社員によってスキルアップを図ってほしい内容が様々であったりまとまった研修時間が取れない場合もあるため、当センターで開催するセミナーの他にｅラーニング講座を開講募集した。170 講座の中から 95 講座の受講があり自分のペースで自分の好きな時間に自分に合ったコースを学習することができる研修の場を提供することができた。

昨年度に引き続き未来を担う子どもたちの人材育成事業として中高生を対象とした「岡崎デジタリアン創出・育成事業」や小学生向けのプログラミング教室「プログラミング de 自由研究」も実施した。今年度は、これらの事業のステップアップとして午前中はドローンを飛ばすためのプログラムを作成し、実際にドローンを飛ばす講座。午後はデジタリアン修了生によるドローンサッカーマッチ及びドローンレースを内容とした「ドローン Day」を開催した。

このように、今年度は今までの提案事業をステップアップするにはどうしたらいいかを検討し事業展開していくことに重点を置き取り組んできた。

２　勤労者支援センター施設の利用状況

⑴　利用状況

＜利用件数累計表＞

区分		件（件）	利用人員（人）	稼動率（%）
本館棟	第１教室	132	2,341	14.24
	第２教室	151	911	16.29
	第３教室	453	2,808	48.87
	第４教室	205	3,049	22.11
	第５教室	135	1,079	14.56
	本館棟計	1,076	10,188	23.21
専門実習棟	第１実習室	49	228	5.29
	第２実習室	113	413	12.19
	第３実習室	184	1,024	19.85
	専門実習棟計	346	1,665	12.24
多目的実習棟	多目的実習室	1,001	9,724	53.99
合計		2,423	21,577	26.14

⑵　利用状況に対する自己評価

令和５年度の利用状況については、⑴の利用件数累計表のとおりである。

本館棟については、第１教室は主に陶芸や面打ち講座などの利用、第２教室は岡崎技術工学院の認定訓練や先端技術セミナーによる利用、第３教室はパソコン講習や先端技術セミナーによる利用、第４・第５教室は職業訓練講習、先端技術セミナー利用である。

前年比では、利用件数は 74 件の減、利用人数は 2,649 人の減である。利用件数が減少した理由は、定期的に利用していた１団体の利用がなくなったことと昨年度企業や組合での講習会が実施されなかったためである。利用人数が減少した理由は昨年度は２回選挙の投票会場として利用されたが、今年度は、４月の１回のみであったことと利用件数減少に伴い利用人数も減少した。

専門実習棟の第 1、第 2 実習室は、岡崎技術工学院の認定職業訓練の夜間利用が主で、その他は岡崎技術工学院の実技試験による日中利用、組合団体の実技検定での利用である。第 3 実習室は木工教室、日曜大工教室の利用と岡崎技術工学院の認定職業訓練の夜間利用である。前年比、利用件数は 60 件の増、利用人数は 17 人の減である。今年度は岡崎技術工学

院のクラス数が増えたことにより実習室での利用は増えたが、建築板金の技能検定に向けての特別訓練による実習室の利用が減少したことが利用件数の減少の大きな理由である。

多目的実習棟は、職業訓練の実技訓練や実技試験、指定管理提案事業としてのドローン操縦体験及び卓球、バレーボール等のスポーツの団体による利用である。前年比、件数は 395 件の減、利用人員は 2,841 人の減となった。

月の第 2、第 4 週がドローン操縦体験週として貸出を行っていないので、昨年度秋頃より利用回数の減少を許容できない団体が他の近隣施設に活動を移してしまう状態が生じていたが、今年度は更に他施設への利用団体が増加してしまった。従前からの懸案事項であった多目的実習棟の床の補修工事を今年度末に実施することができたので、今後の利用状況に反映できるように期待している。

しかしながら石材業界の応援団「石屋の応援団 in 岡崎」のイベントや警備関係の実技研修を初めて多目的実習棟で行うことができ、少しずつであるが実績を積み上げて次に繋げていきたい。

３　勤労者支援センターの管理運営にかかる収支状況

⑴　収支状況

	項　　目	内　　訳	決算額（円）
収入	指定管理料収入		30,521,326
	事業費収入		667,600
	便益施設に関する収入	自動販売機収入等	201,114
収　入　計			31,390,040
支出	直接管理費	直接人件費、光熱水費、燃料費、役務費、手数料、修繕費、消耗品費、委託料、保険料等	25,556,606
	（うち修繕費）	第２、第３実習室西側 LED 照明器具取替、多目的実習棟他誘導灯取替、高圧受電設備改修工事、第２、第３駐車場案内看板設置工事等	（2,167,880）
	事業費	事業に係る経費	5,150,881
	その他	法人税・住民税及び事業税、本部経費、当期剰余金等	682,553
支　出　計			31,390,040
差　　引			0

⑵　収支状況に対する自己評価

収入は、指定管理料収入、事業費収入、自動販売機等に関する収入である。

指定管理料収入は、前年比 103.5%である。

事業費収入は、ドローン操縦体験及び夜のドローン自主練習、火曜日自由練習の参加費と先端技術講座の受講料である。ドローン操縦体験者は昨年よりかなり減少したが夜の自由練習と新規事業の火曜日のドローンフリーフライトの参加者が増加したため前年比 187.0%となった。

自動販売機収入等は、技能検定等で施設を利用する主催者が水分補給の飲み物を持参することが多い傾向ではあるが、夏の暑さも影響し前年比 105.7%となった。

収入合計では前年比 104.5%となった。予算計画対比は 87.3%であった。

支出については、直接管理費のうち直接人件費は、岡崎幸田勤労者共済会スタッフ４名分の人件費と夜間業務を担当している岡崎技術工学院の人件費である。限られた職員で、効率的な会館管理業務に努めた。

光熱水費は節約に努め前年比 83.5%となった。7月1日から 10 月 31 日まで大型冷風扇も稼働していたが予定より支出を抑えることができた。

委託料は、広報費として当センターで実施しているドローン操縦体験をアピールするため岡崎の花火大会協賛でうちわを作成した。予算計画対比 97.9%となり計画的に執行することができた。消耗品は、今年度は当施設の事業内容を効果的にアピールするためにポスター等の掲示の充実に伴う支出であり前年比 189.3%、予算計画比 70.2%となった。修繕費は、施設の利用者の安全を第一に優先順位を考慮しながら実施し、多目的実習棟、本館棟の誘導灯の取替と専門実習棟の LED 化等を行い、予算どおり執行できた。

直接管理費支出合計では前年比 103.9%、対予算計画比 80.3%となった。

事業費については、今年度は、提案事業実施のための環境を整える計画目標を立てた。先端技術セミナーを実施するにあたり多様なセミナー形式に対応が可能なテーブル、椅子の購入や、3 年目となったドローン機体等の整備に係る費用に充てた。また昨年以上に広報活動に力を入れ、チラシやポスターをセミナーごとに作成したため前年比 270.5%、予算計画対比 99.2%となった。提案事業をより充実した内容で実施することに注力してきた結果である。

その他の法人税・住民税及び事業税、本部経費、当期余剰金等は前年比 104.5%となった。

4　利用者アンケート結果

⑴　実施概要

実施期間	回答者数	実施方法
令和５年 11 月８日（水） ～ 令和６年　３月８日（金）	202	アンケート用紙を配布し、記入後回収 多目的実習棟については利用団体で回答

⑵　アンケート結果概要

アンケート調査の結果は別紙のとおりである。

＜意見・要望等について＞　（任意書き込み）

- 部屋が寒い。
- 後列用のスクリーンが欲しかった。９列目からでは、スクリーンの文字が見えない。
- 第３駐車場が分かりにくかった。
- 駐車場の１区画が狭すぎて駐車できない。
- ２階教室は高齢者に少し大変。
- 多目的実習棟の床がすべる。
- 多目的実習棟の床とラインを直して欲しい。
- 防球フェンスが倒れやすい。
- 専門実習室の掃除道具が古すぎる。
- 専門実習室の工具類使用の拡大を望みます。

⑶　アンケート結果に対する自己評価

全体的には、どの項目も「ふつう」の回答が多かったが、概ね満足していただいていると分析している。

貸出備品・附属設備の種類、管理状態、利便性については、卓球台や防球フェンスが古いため不満の声が多い。長年、卓球台、卓球ネット、卓球ネット支柱については購入してほしいと

いう声が多い。この点については、岡崎市とも協議しているが利用者の希望に沿えていない状態になっている。多目的実習棟の床の補修については、年度末に補修工事が完了し床の隙間や段差が解消され安全に利用できる状態となった。

専門実習室の掃除道具については早急に改善をした。また、初めて当施設を利用する人は第２、第３駐車場や駐輪場がわかりにくいとの意見があったので今年度案内看板を設置した。

アンケートの意見や要望は、毎年同じよう内容が多く、利用者にとっては改善されないという不満が大きくなってしまう。特に多目的実習棟の利用のあり方を問われる時期にきている。

５　その他の自己評価

⑴　利用者へのサービスに対する自己評価

今年度、勤労者共済会のホームページをリニューアルしたことに伴い、勤労者共済会の会員が当センターのホームページに簡単にアクセスできるようになり、当センターでの事業内容を詳細に知ることができるようになり、ドローン操縦体験や先端技術セミナーへの興味や申込に繋げることができた。ドローン操縦体験の申込も今年度はホームページからによるものが多くなり、利用者にとっては思い立った時に申込ができるため好評である。

また、今年度は本館棟に加え多目的実習棟、専門実習棟の Wi-Fi 環境を整えた。ドローン夜間自主訓練、ドローンフリーフライト等でドローンに関することを調べたい時、確認したい時に活用することができるようになり、技術向上の支援にも繋がった。

⑵　利用者のニーズ把握に対する自己評価

施設利用者からのアンケートにより利用者ニーズを把握しているが、現時点では対応が難しいことも多い。特に施設リニューアル前から多目的実習棟を利用していた団体は、利用回数が減少したことへの不満や床の修繕、卓球台やネットの新調を望む声が多くなかなか改善されないため他の近隣施設への利用に移ってしまった。そんな中、少しでも快適に利用できるようにするために今年度大型冷風扇２台を設置し、真夏に実施される技能検定やスポーツ活動への対策を行った。

毎年のアンケートでパソコン講習参加の高齢者は１階での講座開催を望んでいるが、１階には講習向きの教室がないため要望に応えられない。これらの指定管理者だけでは対応できない要望については引き続き岡崎市とも協議し、改善できることについては改善していきたい。

提案事業に関しては、アンケートや受講生の声から今話題の資産形成セミナーをいち早く取り入れ勤労者の福利厚生の充実に努めた。

⑶　苦情対応等に対する自己評価

当施設は、勤労者共済会の窓口も兼ねているため共済会の会員が斡旋商品の引き換えやチケット購入のための共済会窓口用の駐車区域を４台分用意している。職業訓練講習日は、敷地内の駐車場が混雑するため、共済会用の駐車場区域に施設利用者の車が駐車してしまう場合があり、共済会会員の車が停めることができない場面があった。

職業訓練利用者の来館時間が早いため共済会窓口用に駐車しないように講習時間開始まで駐車コーンを設置して対応をした。事務室から共済会窓口用駐車場所が見えないため、職業訓練開始後は気づいた時に声かけをして車の移動に協力していただいている。利用目的が異なる人が同時に利用するためどちらも気持ちよく利用ができるような言葉がけを心掛けた。